

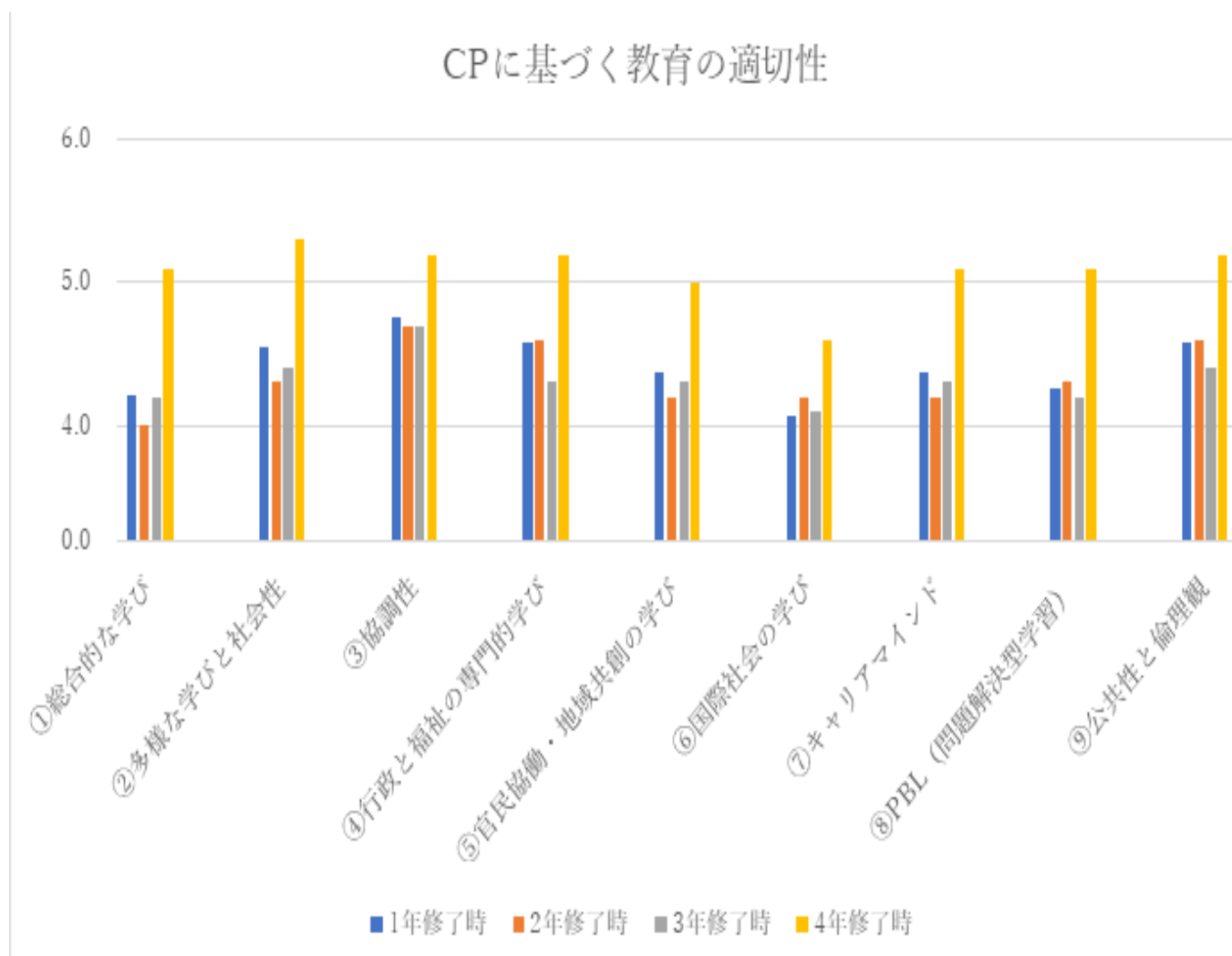
2025 年度 教育課程編成・実施の方針(CP)に照らした教育の取組の適切性に関する検証

総合福祉学部 福祉行政学科

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用して学科 CP を検証した。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記 URL）参照。 <https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html>

福祉行政学科では、学科カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢ふり返り」として 9 項目を 6 件法によって調査し、それらを 1～6 点に換算して平均値を算出した。学科 CP に謳う①目標に応じた学修デザインに基づく総合的な学び、②多様な学びと社会性、③協調性、④行政と福祉の専門的学び、⑤官民協働・地域共創の学び、⑥国際社会の学び、⑦キャリアマインド、⑧PBL（問題解決型学習）、⑨公共性と倫理観、の 9 つの教育課程の要諦を学生が意識的に学修しているかを調査し、その浸透度合いを測定した。

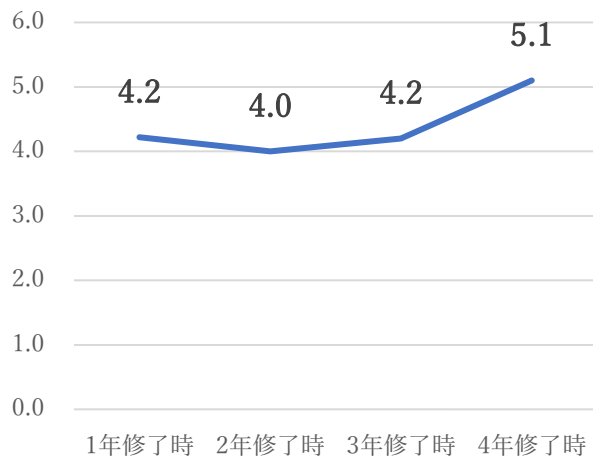
「教育の取り組みの適切性」を測るため 25 年度在籍全学生を母体とし、「一年終了時」「二年終了時」「三年終了時」「卒業時」に別けて集計した。それぞれの回答人数は 106 名、19 名、26 名、17 名となっている。



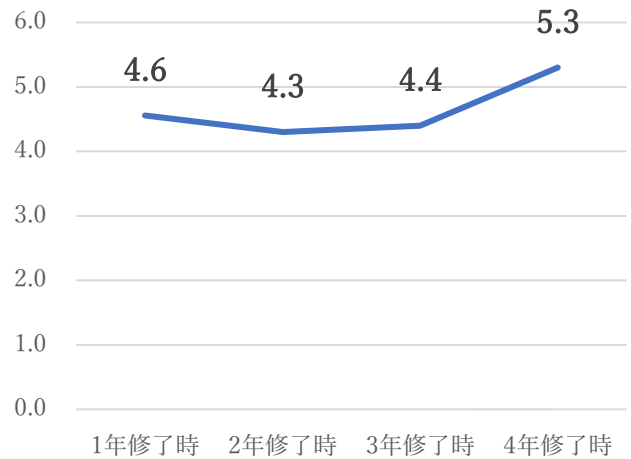
これを見ると、項目別のばらつきはあるが、概して年次が進むごとに学科カリキュラムが学生に意識化されていることがわかる。キャリアを意識し始める 3 年時以降は意欲が高まって 4 年の卒業時に全ての項目が最高値となっており、学科カリキュラムの方針が意識化されて学習している様うかがえた。

次に、項目ごとの年次比較を掲げる。

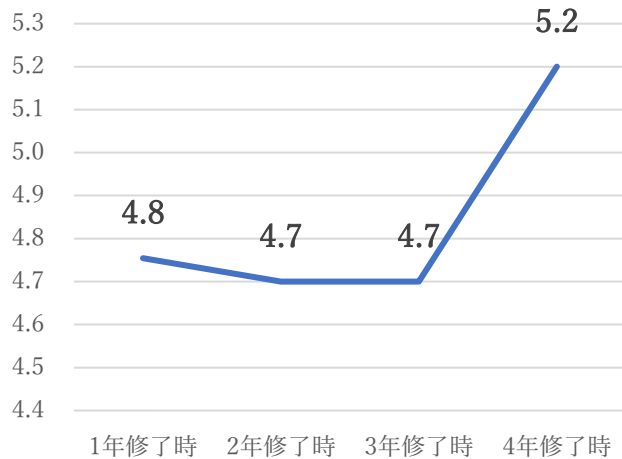
①総合的な学び



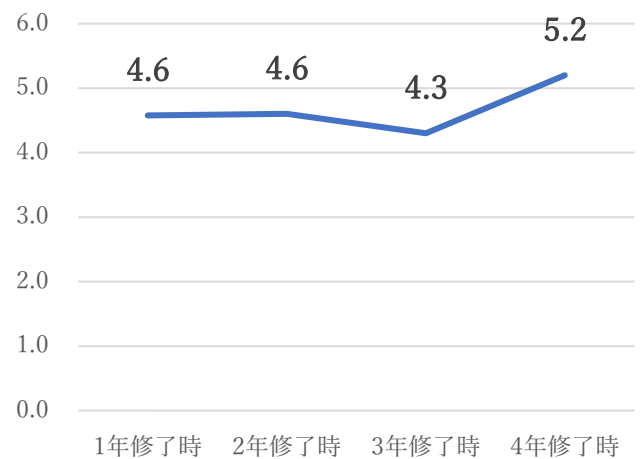
②多様な学びと社会性



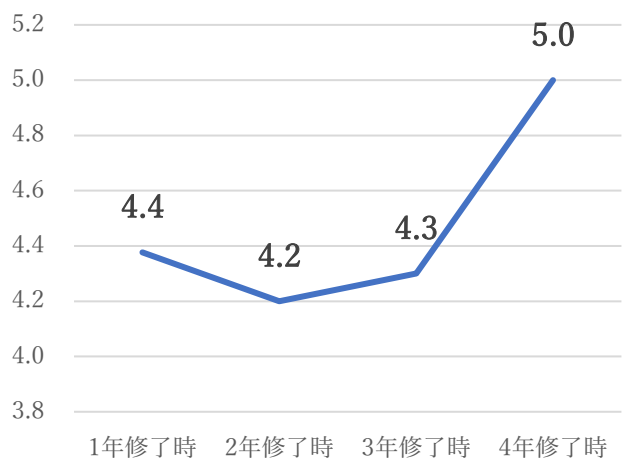
③協調性



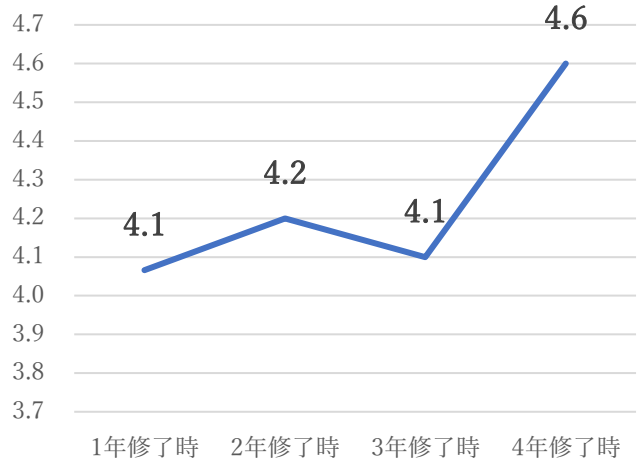
④行政と福祉の専門的学び



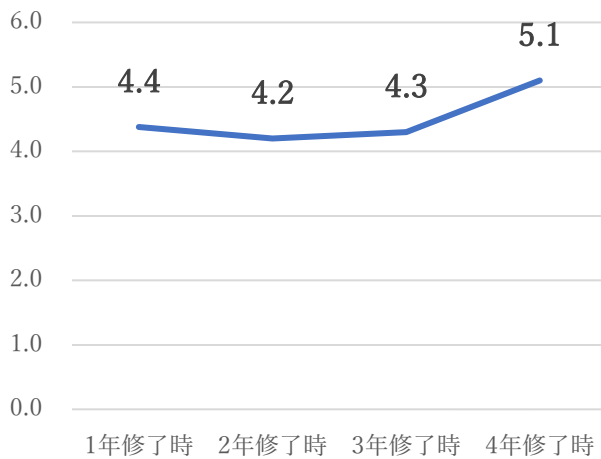
⑤官民協働・地域共創の学び



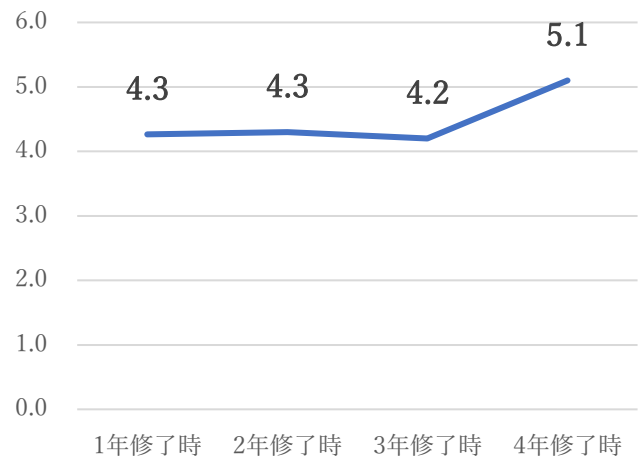
⑥国際社会の学び



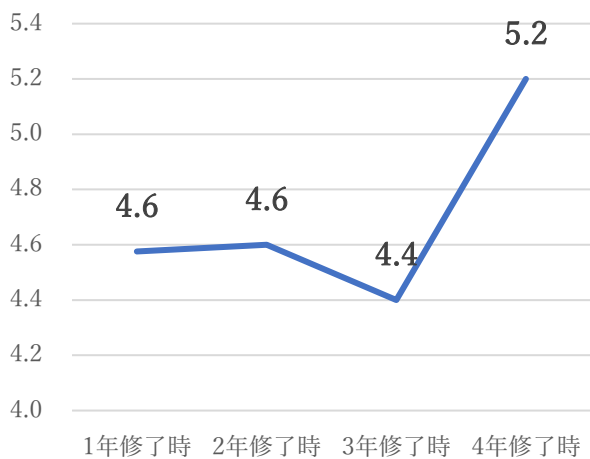
⑦キャリアマインド



⑧PBL（問題解決型学習）



⑨公共性と倫理観



初年次スコアが低いのは、基盤教育科目が主で学科専門科目は多く配当されていないことから、まだ学びの意欲が高まらないものと推測される。これは大学設置基準上やむを得ないことで、初年次教育に大きな問題があるとは考えにくい。また全ての項目で4年時に最高スコアとなっているように、4年間を通してのカリキュラム・ポリシーは計画通りに機能していると思われる。

但し項目別にみても、入学時の「学びの志」が学年を重ねるごとに低減して「中だるみ」になっている様も否めない。学生は3年後期から就職活動が始まることで、初めて学びの意義やカリキュラム・ポリシーの意義を実感し、その結果として4年時に急激にスコアが改善すると思われる。

しかし昨今の就職活動や公務員試験の早期化を踏まえると、これでは出遅れてしまう可能性がある。より良いガクチカを準備する為にも、基礎学力を高めるためにも、この「中だるみ」の時期は問題である。以上を踏まえた上で、今後も4年間のカリキュラム、特に初年次教育を継続して検討していきたい。

【自由記述】 特になし

【改善点】

- ・ 全体的な回答率の低さ→「総論」「各論」の最終回にて回答時間を設ける？
- ・ 「中だるみ」への対策→初年次教育で「早期化」への対応を強く促すべき？
- ・ 専門的な学び(「総合的学び」「福祉や行政の専門的学び」「国際社会の学び」「PBL」)が低い
- ・ カリキュラム・ポリシーを変更したが、過去との時系列的比較のために今年度は従来のCPに基づいて調査している。次年度はマイステップの項目を作り変える必要がある。